六月十六日㈭から十八日㈯まで現地北塩原村小野川で実施した。県内から青少年団体指導者、野外活動指導者、教員、公民館職員、教育委員会職員等三十名が参加し、キャンプ地の地形、環境、キャンプサイト設営、水場やかまど、緊急避難場所の確認等をした。

また、西吾妻山、不動沢の事前踏査をするなど、十日間のプログラム細案の検討と指導者としてのあり方・指導方法についての共通理解を図った。

㈢ 健康・安全の対策

キャンプ実施については、安全確保を図り、所期の目的を達成することが重要であることから、関係機関・団体等と緊密な連携を図り、万全な安全対策を講じた。

① 救急対策本部の設置と救急体制の確立

② 安全点検項目に基づいた事前調査の実施

③ 予想される緊急事態とその対応
- けが、病気の処置
- 気象条件の悪化による緊急避難
- 山火事の発生
- 遭難、行方不明

④ 有害動植物の調査

⑤ 健康調査の実施
- 事前健康調査（個人）
- 事中健康調査（個人）
- 事中健康診断（医師による）

⑥ 健康・安全教育の徹底

三、自然に挑戦！ フロンティア・アドベンチャー

㈠ 指導組織

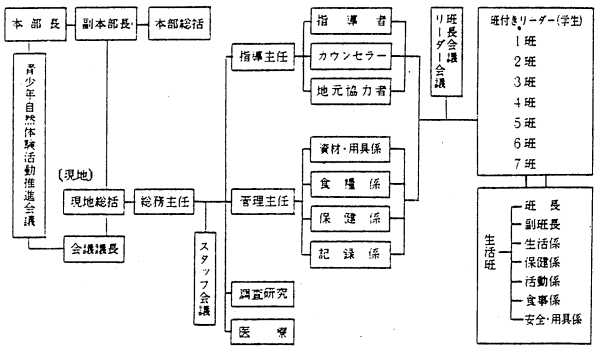
本キャンプの指導組織体制は、図2のとおりである。

指導者は、六月に実施した指導者研修会の修了者を中心に四十七名で指導に当たった。

表1 指導項目と主なプログラム

指導項目	指導方法	主なプログラム
1．参加体験	・協力と協調を不可欠とするプログラムの指導 ・作業等の結果を連帯で責任を負うという指導方針で実施 ・年齢、能力等の異なる者との助け合い、いたわりあいを最大限に評価していく指導を行う ・各種作業プログラムの実践 ・作業計画の立案と実行 ・道具の使い方、手順、安全管理の指導	(1)各種作業 小屋作り キャンプサイトの整備 テント設営 かまど・トイレつくり 食事の準備と後片付け (2)班会議 (3)火起こし器等アドベンチャー活動 (4)祭り
2．たて集団体験	・異年齢の子どもたちによる班編成と共同生活 ・異年齢の子どもたちに共同作業ゲーム	(1)班編成（異年齢） (2)班別反省会 (3)アドベンチャーゲーム (4)祭り (5)ボンファイヤー
3．自然接触体験	・動植物の観察と採集 ・自然の中での作業と遊び ・美しさ、すばらしさの感動	(1)小屋作り (2)魚つかみ (3)湖水浴 (4)登山 (5)不動沢探検 (6)星の観察
4．不満、不服、耐性体験	・身体的にやや困難な共同作業プログラムの実施 ・一定時間内で物事を処理する即応力の訓練 ・一定のルール・規律を厳格に守る経験のプログラム ・一定の物的条件しか与えられない状況での共同生活 ・自然の中での体力・持久力の向上のためのプログラム ・孤独な体験をさせる	(1)各種作業 小屋作り キャンプサイトの整備 テント設営 かまど・トイレつくり 食事の準備と後片付け (2)自給自足生活体験 (3)登山 (4)不動沢探検 (5)節水
5．自発的学習欲求充足の体験	・言われなくともやるという徹底した指導 ・冒険心、好奇心	(1)自給自足生活体験 (2)祭り (3)登山 (4)不動沢探検
6．基本的生活習慣の確立	・キャンプにおける日常のあいさつの基本を指示し、言葉使いの誤りはすべての場面で訂正し指導する ・起床、就寝、洗面等の指導 ・食事のマナーの指導 ・食事の準備、後片付け等の指導	(1)起床、就寝、あいさつ、言葉使い、整理整頓、清掃、食事、健康管理安全等

図2 フロンティア・アドベンチャー組織・運営体制



㈡ 参加者

県内の小学五年生から中学二年生まで五十名の男女が参加した（表2参照）。

性別・学年を考慮した異年齢集団、男女一緒の七～八名からなる班を生活班として構成した。

㈢ 活動の様子（表3参照）

開拓の日

初日は、郡山少年自然の家で結団式を行う。初対面でどこかぎこちなさがあったが、ゲーム、班会議等を通じて仲間意識が芽生えてきた。天気霧雨、気温は低く、天候不順が心配であった。

表2 参加児童生徒数の一覧

学年／性	小学五年生	小学六年生	中学一年生	中学二年生	計
男	5	20	3	7	35
女	3	6	2	4	15
計	8	26	5	11	50

初めの日に、班の旗作りをしたおかげでみんなと気軽に話せるようになりました。本当にうれしかったです。おかげで、いままで下手だった友達づくりがうまくやれそうです。（小六・女）